

第2学年1組 英語科 学習指導案

1 単元名

Unit 3 Career Day

2 単元の目標

- ・ 友だちの将来の夢についての話を聞き、積極的に外国語を用いてやりとりをしようとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・ 将来の夢について述べ、情報を付け足して説明することができる。【外国語表現の能力】
- ・ 職場体験のレポートを読んで、その内容が理解できる。【外国語理解の能力】
- ・ 不定詞の3つの用法に関する知識を身に付けている。【言語や文化についての知識・理解】

3 単元計画（全9時間）

次	時	主な学習活動 ☆協同的探究学習	協同的探究学習における	
			○ 指導内容	● 留意点
一	1	・ 不定詞の副詞的用法が用いられた注意書きの英文を理解する。		
	2	・ 「～するために」と不定詞を使って何かをする目的を表す。		
二	1	・ 不定詞の名詞的用法が用いられた会話を理解し、練習する。		
	2	・ 「～になりたい」と自分の夢について表す。		
三	1 2	・ 職場体験のレポートを読み、内容を理解する。		
四	1	・ 日常生活での出来事について、英語でメールを書く。		
五	1	☆ 将来の夢についてのモデル文を参考にしながら、自分の将来の夢について4文以上の英語で書く。（本時）	○ 不定詞を使い将来の夢について具体的に4文以上の英語で表すことができる。	● 他の人と表現を共有しながら、工夫した英文が書けるようにする。
	2			

4 指導上の立場

○ 単元観

Unit 3では、職場体験学習を題材として扱っている。レストランでの職場体験に際しての読み取りから、体験の感想についての対話、新聞社での体験レポートの読み取りなどが扱われている。本校でも職場体験が実施されており、生徒にとっても身近な教材である。本単元の登場人物の体験や感想を通して、生徒自身が将来の夢や希望について考え、英語で表現する契機としたい。

○ 生徒観（既習事項と身に付けている力）

生徒はこれまでに各単元において、自分の意見や感想を英語で表す活動を行っている。辞書を活用したり、これまでに習った表現を活用するなどして工夫して表そうとする意欲を持つ生徒が多いが、意見を持ち英語で表現することに苦手意識を持つ生徒もいる。簡単な英文を書くことには慣れているが、相手に伝えるための効果的な文章構成や比較的まとまった量の英文を書くことには抵抗がある生徒が多い。

○ 指導観（協同的探究学習場面の位置付けとそのねらいについて）

自分の意見や考えを英語で書き表す際に、他の人の様々な表現の工夫を知ることで、Unit 3で習った不定詞がどのように将来の夢を表す原稿の中に活用できるのかということに気付かせたい。特に、不定詞の3つの用法を用いることで、単に自分の夢を伝えられるだけでなく、そのための努力した過程など、より具体的に相手に伝えられることに気付かせたい。友だちと表現の工夫について共有しあうことで、自ら他の人と協同してよりよい英語表現をしようとする姿勢にもつなげたい。

5 本時案（第5次 第2時）

(1) 本時の目標（わかる学力）

Unit 3 で学習した不定詞を用いながら、自分の将来の夢について相手に分かりやすく伝える英文を5文以上で表現することができる。

(2) 展 開

学習活動	教師の支援
<p>導入問題 事前に準備した「私の将来の夢メモ」をもとに、Unit 3 で習った表現を使いながら、5文以上の英文にする。</p>	<p>導入問題のポイント ・書く内容のポイントについて、あらかじめワークシートに示しておくことで、より具体的な原稿作成につなげたい。</p>
<p>個別探究 ・以下の3点を意識して、英文を作成する。 （ア）不定詞の3つの用法で具体的に表す。 （イ）既習の表現で詳しく説明する。 （ウ）効果的な構造にするための工夫をする。</p>	<p>考えを引き出す工夫 ・英文作成の手助けとなるように、Unit 3 で習った不定詞の用法のポイントとなる文法を黒板に掲示する。</p>
<p>協同探究 ・グループで回し読みする。その際、①～③の文があれば線を引く。数人の生徒が自分で作成した英文をクラスに対して発表する。 ・発表者は、右の①②③についても述べる。</p> <p>・関連付け発問：発表後、「発表者の英文を比べて、似ているところ、共通するところはないか」をクラス全体に対して尋ねる。 【予想される生徒の考え】「不定詞の副詞的用法を使い「〇〇になるために」を表現している。」「First、Second、を使い、理由を順番に表現している。」</p> <p>・追究型発問：「不定詞を使うと、夢についてどのようなことが表現できるか」について考えさせる。 【予想される生徒の考え】「副詞的用法を使うと、夢を実現するために今、何をしているかを表現することができる。」</p> <p><関連付け、本質追究のポイント> ・名詞的用法「～すること」を用いて将来の夢の具体的な理由として述べる。 ・副詞的用法「～するために」を用いて将来の夢の実現のための具体的方法などを表す。 ・形容詞的用法「～するための」「～すべき」を用いて実現のための過程について表す。 ・First、Secondやsoなどを用いて、理由や論の展開を効果的に伝える英文にする。</p>	<p>発表 ・①不定詞の活用②文構造の工夫③内容の具体化の3つの視点に分けて発表させる。 ・数名の生徒に発表内容を板書させておき、必要があれば教師が補足で板書する。</p> <p>関連付け ・Unit 3での既習事項を原稿を具体的に書く際の方法と関連付ける。 ・教科書のモデル文で使われている接続詞が原稿をより分かりやすいものにするのと結び付ける。</p> <p>本質追究 ・不定詞を用いることで、将来の夢についてより具体的な文章表現ができることに気付かせる。</p>
<p>展開問題 ・他の人の表現を参考に、自分の原稿をより詳しく相手に伝わりやすいものにしよう。 ・導入問題で作成した英文に別の色で表現を加えたり修正したりして書き込んでいく。</p>	<p>展開問題のポイント ・協同探究場面で共有した他の人の表現を参考にして自分の英文に修正を加えることで、当初の原稿よりもより具体的で相手に伝わりやすいものにしたい。</p>

<p>評価 A 基準 ・協同探究で発表され、検討された表現を参考にしながら、自分の将来の夢について、5文以上の英語で、相手に伝わりやすい構造で、具体的に表現された英文を用いて書けている。 B 基準 ・協同探究で出た表現を参考にしながら、自分の将来の夢について5文以上の英語で書けている。</p>
--